

歴史問題を考える

先の大戦が終わり 70 有余年が経過した現代においても、日本は歴史問題をめぐる外交的諸課題に直面しています。今回の研究フォーラムでは、こうした課題の背景や原因を探究すると共に、問題解決に向けた今後の対応策について、最新の研究成果に基づいて学際的に考えたいと思います。

基調講演



西岡 力

歴史研究室 室長・教授
麗澤大学 客員教授

研究発表



ジェイソン・モーガン

歴史研究室 客員研究員
麗澤大学 准教授

研究発表





川久保 剛

歴史研究室 主任研究員
麗澤大学大学院 准教授

令和3年3月21日(日) 開会 10:30
(受付 10:00)

<申込締切: 令和3年3月14日(日)>

- ★会場参加 (先着 60 名: コロナ感染防止のため) 
【会場】中日本生涯学習センター
【参加費】3,000 円 (昼食・資料代 1,000 円含む)
右の申込先へ FAX もしくはメールでお申込み下さい。

- ★オンライン参加 (Zoom でのライブ配信) 
【参加費】2,000 円 (資料は PDF にて配布)
右の QR コードもしくはモラロジーネットよりお申込み下さい。

お問い合わせ・申込先 (会場参加)

公益財団法人モラロジー研究所
東海ブロック (担当: 高木・安永)
〒509-6194 岐阜県瑞浪市稲津町萩原 1661

TEL: 0572-66-3008
FAX: 0572-66-3009
E-mail: tokai@moralogy.jp

(オンライン参加)



主催:
公益財団法人モラロジー研究所
道徳科学研究センター/東海ブロック

■当日プログラム

10:30	開 会
10:40	基調講演 <small>にしおか つとむ</small> 西岡 力 教授 「平成時代に『過去の日本たたき』が 広がった理由」
90分	
12:10	昼 食
13:10	第1講 ジェイソン・モーガン 客員研究員 「戦後の呪縛を解けと 目覚し時計が鳴っている」
40分	
13:50	質疑応答
10分	休 憩
14:15	第2講 <small>かわくぼ つよし</small> 川久保 剛 主任研究員 「『国民』の自覚を育む 市民教育の必要性」
40分	
14:55	質疑応答
10分	休 憩
15:20	全体討論
16:20	
16:30	閉 会

■基調講演、研究発表の概要・ねらい

西岡 力 教授

「平成時代に『過去の日本たたき』が広がった理由」

GHQ は、日本には他民族を侵略する悪の血が流れているという歴史観を押しつけた。冷戦後、中国共産党、北朝鮮と韓国親北左派、日本左派がそれを悪用して、自分たちを正当化した。平成時代に「過去の日本たたき」が広がった理由だ。反省や補償が不十分だったからではない。この全体像を見破ることがいま求められている。

ジェイソン・モーガン 客員研究員

「戦後の呪縛を解けと目覚し時計が鳴っている」

国とは、理念か、それとも人々が暮らす場所か。WGIP（ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム）や幅広い検閲、洗脳活動などによって、日本人の愛国心を失わせてアメリカの思想的奴隷にしようとしたアメリカ軍だが、伝統や文化に富んだ日本では、アメリカのプロパガンダを鵜呑みにする日本人は、自分のアイデンティティーを否定するしかなく自動的に「反日」に向かった。しかし、いま戦後の洗脳がやっと広く知られるようになり、呪縛を解けという目覚まし時計が鳴りつつある。

川久保 剛 主任研究員

「『国民』の自覚を育む市民教育の必要性」

「教育基本法第 1 条」では「教育の目標」が「国民の育成」にあると謳われている。しかし戦後から現在に至るまで「国民の育成」教育は行われていない。その背景にはどのような歴史的要因があるのか。またそのことが原因となって現在どのような問題が起きているのか。そして今後はどのように「国民の育成」教育を行うべきか。この 3 点について考えたい。

令和 2 年度 道徳科学研究フォーラム in 東海 **参加申込書** ※オンライン参加のお申込みはネットでお受けいたします

ふりがな 氏 名			年齢	性別 男 ・ 女
ご連絡先	〒			
	TEL :	FAX :		
	E-mail :		@	
事務所名	事務所	モラロジー研究所の維持員で ある ・ ない		
備 考				

必要事項をご記入のうえ、FAX（0572-66-3009）、郵送もしくはメールでお申込みください。
 参加証は1ヶ月前くらいから郵送いたします。
 ※ご記入いただいた個人情報、本事業に関する利用目的の範囲内のみで使用します。